

小川葉子、榛村重人、川北哲也、吉田悟、河上 裕、坪田一男	眼慢性移植片対宿主病における上皮間葉転換	第30回日本炎症再生医学会	東京	平成22年8月5-6日
稲葉隆明、小川葉子、御子柴克明、坪田一男	IP3R欠損マウスを用いたシェーグレン症候群の病態解明	第19回シェーグレン症候群学会	千葉	平成22年9月9-10日
小川葉子	第6回ドライアイリサーチアワード受賞講演 <u>Ogawa Y.</u> , Shimmura S, Kawakita T, Yoshida S, Kawakami Y, <u>Tsubota K.</u> Epithelial mesenchymal transition in human ocular chronic graft-versus-host disease. Am J Pathol. 2009;175 (6):2372-2381.	オキュラーサーフェス専門別研究会 第64回日本臨床眼科学会	神戸	平成22年11月12-15日
<u>Ogawa Y.</u>	Symposium 22. Cicatrizing ocular surface disease. GVHD dry eye.	The 2 nd Asia Cornea Society Biennial Scientific Meeting.	Kyoto, Japan	1-3, Dec, 2010
早稲田優子	IgG4関連疾患の肺病変におけるステロイド治療の効果の検討	日本呼吸器学会学術講演会	国立京都国際会館	2010年4月23-25日
高戸葉月、早稲田優子	IgG4関連疾患の肺病変におけるステロイド治療の効果の検討	日本呼吸器学会学術講演会	国立京都国際会館	2010年4月23-25日
<u>Yuko Waseda</u>	Airway disorders in IgG4-related pulmonary disease	European respiratory society	Fira Barcelona, Spain	18-22 september, 2010
Takato Hazuki, <u>Yuko Waseda</u>	Chest CT Findings in IgG4-associated diseases	European respiratory society	Fira Barcelona, Spain	18-22 september, 2010
早稲田優子	間質性肺炎における血清IgG4測定の検討	呼吸器合同北陸地方会	福井大学医学部	2010年11月6,7日
早稲田優子	間質性肺炎における血清IgG4測定の検討	日本アレルギー学会総会	東京国際フォーラム	2010年11月25-27日
山本 洋, 横山俊樹, 伊東理子, 神田慎太郎, 安尾将法, 津島健司, 花岡正幸, 小泉知展, 久保惠嗣, 川上 聡,	sarcoidosisに類似したIgG4関連肺疾患の臨床的特徴:6例のreview	第30回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会	静岡県浜松市中区板屋町111-1 アクトシティー浜	2010年10月1~2日

上原 剛, <u>浜野英明</u> , 川 茂幸			松コング レスセン ター	
-----------------------------	--	--	--------------------	--

VII. 研究成果による特許権等の知的財産の
出願・登録

VIII. 社会活動報告

社会活動報告

活動者名 (所属施設)	会の名称および講演演題等	会場および 新聞名等	活動年月日
田中良哉 (産業医科大学医学部第1内科学講座)	平成22年度 厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療研究推進事業 リウマチシンポジウム (日本予防医学協会主催)	広島	平成22年12月5日
正木康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)	「IgG4 関連多臓器リンパ増殖症候群 (IgG4+MOLPS) ～21世紀に本邦より発信された新たな疾患概念～」第10回 東海悪性リンパ腫研究会	名古屋クレストンホテル	2009年9月19日
正木康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)	「IgG4 関連多臓器リンパ増殖症候群 (IgG4+MOLPS) の診断と治療。」日本内科学会北陸地方会第48回生涯教育講演会.	金沢医科大学	2009年9月6日
正木康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)	「IgG4 関連多臓器リンパ増殖症候群 (IgG4+MOLPS) ～21世紀に本邦より発信された新たな疾患概念～」第12回 Osaka Blood Club	ホテル阪急インターナショナル	2009年11月13日
正木康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)	「IgG4 関連多臓器リンパ増殖症候群」第39回 神奈川県リンパ腫病理研究会	キリンビール横浜支社7F会議室	2009年4月18日
正木康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)	「IgG4 関連多臓器リンパ増殖症候群」第39回 神奈川県リンパ腫病理研究会	湘南鎌倉病院	2009年4月10日
正木康史 (金沢医科大学 血液免疫内科学)	「IgG4+AMOLPS (Autoimmune multi-organ lymphoproliferative syndrome) に関する話題～Sjögren 症候群と Mikulicz 病の異同について～」第28回鹿児島膠原病研究会	鹿児島東急ホテル	2007年7月10日
松井 祥子 (富山大学 保健管理センター)	富山県難病相談・支援センター講演会 膠原病と肺	サンシップ富山	2010, 9, 10
松井 祥子 (富山大学 保健管理センター)	厚生労働科学研究 難治性疾患克服事業研究事業「びまん性肺疾患調査研究班」平成22年度第2回班会議総会、IgG4 関連疾患の呼吸器病変について.	東京 大正製薬(株)本社ビル	2010, 12, 10-11
松井 祥子 (富山大学 保健管理センター)	第5回呼吸器疾患を語る会 IgG4 関連疾患とその呼吸器病変について	塩野義製薬(株)東京支店	2011. 1. 8
佐伯敬子 (長岡赤十字病院)	上越腎病理セミナー IgG4 関連疾患 (IgG4-related disease) とその腎病変	直江津市	2010. 10. 26
佐伯敬子 (長岡赤十字病院)	第14回腎臓内科ミート・ザ・エキスパート・ミーティング IgG4 関連疾患とその腎病変	東京都	2011. 3. 9
神澤輝実 (東京都立駒込病院)	第36回臨床医のための神奈川県肝臓病理研究会 特別講演 “IgG4 関連硬化性胆管炎”	横浜	H22. 3. 6

神澤輝実(東京都立駒込病院)	平成 22 年度第 1 回大宮医師会医学講座 “膵炎の診断と治療 ー特に自己免疫性膵炎ー”	大宮	H22. 5. 12
神澤輝実(東京都立駒込病院)	第 4 回胆道癌術後補助化学療法研究会 特別講演 “IgG4 関連硬化性疾患”	千葉	H22. 5. 21
神澤輝実(東京都立駒込病院)	ラジオ NIKKEI 医学講座 “さまざまな膵炎の鑑別診断とおのこの治療法”	ラ ジ オ NIKKEI	H22. 7. 8
神澤輝実(東京都立駒込病院)	呼吸生理フォーラム (肺機能セミナー講演会) 特別講演 “IgG4 関連疾患 (自己免疫性膵炎と膵外病変)”	東京	H22. 7. 23
神澤輝実(東京都立駒込病院)	第 38 回千葉消化器疾患研究会 ミニレクチャー “自己免疫性膵炎の最近の話題”	千葉	H22. 10. 22
神澤輝実(東京都立駒込病院)	テレビ東京 話題の医学 “膵炎の診療ガイドライン (後篇)”	テレビ東京	H23. 2. 20
神澤輝実(東京都立駒込病院)	自治医科大学大学院医学研究科特別講演 IgG4 関連疾患の臨床的研究	栃木	H22. 2. 24
西山 進(倉敷成人病センター)	松江市医師会講演会 ミクリツ病と I g G 4 関連疾患	ホテル宍道 湖	2010 年 11 月 25 日

IX. 研究事業報告

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 研究奨励分野

「新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究」

IgG4 サードミーティング

日時：平成22年8月7日（土曜日）午後1時半より

場所：ホテル金沢（JR金沢駅東口）

研究代表者： 金沢医科大学血液免疫内科学 梅原久範

分担研究員： 京都大学医学研究科内科学臨床免疫 三森経世
筑波大学膠原病リウマチアレルギー内科 住田孝之
慶応義塾大学眼科学 坪田一男
岡山大学病態制御学腫瘍制御学 吉野 正
関西医科大学内科学第三講座 岡崎和一
信州大学健康安全センター 川 茂幸
産業医科大学第一内科 田中良哉
金沢医科大学分子腫瘍学研究部門 竹上 勉
金沢医科大学先進医療研究部門 友杉直久
金沢医科大学血液免疫内科学 正木康史

研究協力者：

北川和子	(金沢医科大学)	佐藤康晴	(岡山大学)
横山 仁	(金沢医科大学)	瀬戸加大	(愛知がんセンター)
利波久雄	(金沢医科大学)	松本守生	(西群馬病院)
川野充弘	(金沢大学)	松本洋典	(京都府立医科大学)
全 陽	(金沢大学)	坂井 晃	(広島大学)
高橋裕樹	(札幌医科大学)	尾山徳秀	(新潟大学)
山本元久	(札幌医科大学)	今村好章	(福井大学)
松井祥子	(富山大学)	高比良雅之	(金沢大学)
佐伯敬子	(長岡赤十字病院)	井上 大	(富山県立中央病院)
中村栄男	(名古屋大学)	藤川敬太	(諫早総合病院)
西山 進	(倉敷成人病センター)	村山佳予子	(群馬県がんセンター)
折口智樹	(長崎大学)	薬師神芳洋	(愛媛大学)
安積 淳	(神戸大学)	菅井 進	(久藤総合病院)
黒瀬 望	(金沢医科大学)	早稲田優子	(金沢大学)
小島 勝	(獨協医科大学)	源誠二郎	(大阪医療センター)
石垣靖人	(金沢医科大学)	川端大介	(京都大学)
神澤輝実	(東京都立駒込病院)	小川葉子	(慶應義塾大学)
浜野英明	(信州大学)	三木美由貴	(金沢医科大学)
鈴木律朗	(名古屋大学)	岩男 悠	(金沢医科大学)
廣川満良	(隈病院)	中島章夫	(金沢医科大学)
伊藤邦彦	(静岡県立大学)	中村拓路	(金沢医科大学)
坪井洋人	(筑波大学)		

今、
世界に
向けて
新たな
発信！

平成22年度第3回総会出席者名簿

平成22年8月7日(土)
参加者74名(敬略略)

区 分	氏 名	所 属 等
研究代表者	梅原 久範	金沢医科大学大学院医科学研究科血液免疫内科学
研究分担者	住田 孝之	筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床免疫学
	吉野 正	岡山大学大学院病態制御学腫瘍制御学病理学
	岡崎 和一	関西医科大学内科学第三講座
	川 茂幸	信州大学健康安全センター
	竹上 勉	金沢医科大学総合医学研究所分子腫瘍学研究部門
	正木 康史	金沢医科大学大学院医科学研究科血液免疫内科学
研究協力者	北川 和子	金沢医科大学大学院医科学研究科眼科学
	中村 栄男	名古屋大学医学部・大学院医学系研究科病理組織医学
	折口 智樹	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 リハビリテーション科学講座
	伊藤 邦彦	静岡県立大学薬学部臨床薬効解析学分野
	利波 久雄	金沢医科大学放射線科
	川野 充弘	金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科
	高橋 裕樹	札幌医科大学医学部第一内科
	山本 元久	札幌医科大学医学部第一内科
	松井 祥子	富山大学保健管理センター
	佐伯 敬子	長岡赤十字病院内科
	小島 勝	獨協医科大学病理学形態
	浜野 英明	信州大学医学部消化器内科
	西山 進	倉敷成人病センターリウマチ科
	廣川 満良	医療法人神甲会隈病院病理細胞診断部
	黒瀬 望	金沢医科大学病態診断医学
	石垣 靖人	金沢医科大学総合医学研究所共同利用部門
	佐藤 康晴	岡山大学大学院病態制御学腫瘍制御学病理学
	松本 守生	独立行政法人国立病院機構西群馬病院血液内科
	松本 洋典	京都府立医科大学血液・腫瘍内科
	尾山 徳秀	新潟大学医歯学総合病院眼科眼腫瘍・眼形成
	今村 好章	福井大学医学部附属病院病理部
	井上 大	富山県立中央病院放射線科
	藤川 敬太	健康保険諫早総合病院リウマチ科
	村山佳予子	群馬県立がんセンター
	菅井 進	久藤総合病院
	源 誠二郎	大阪府立呼吸器アレルギー医療センター アレルギー内科
	川端 大介	京都大学大学院医学研究科臨床免疫学
	小川 葉子	慶應義塾大学医学部眼科学教室
	早稲田優子	金沢大学附属病院呼吸器内科
	坪井 洋人	筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床免疫学

参加者 代理出席者 (同伴者)	中山理祐子	京都府立医科大学血液・腫瘍内科
	塚本 憲史	群馬大学医学部附属病院腫瘍センター
	水島伊知郎	金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科
	高田 尊信	金沢医科大学総合医学研究所
	土田 秀行	金沢医科大学総合医学研究所 先進医療
	丸 晋太郎	金沢医科大学総合医学研究所 先進医療
	岩科 雅範	国立病院機構西群馬病院 研究検査科 病理
	宮永 朋美	群馬大学大学院医学系研究科病理診断学
	西部 明子	金沢医科大学 皮膚科
	新井 次郎	(株)生物学研究所診断薬事業部学術グループ
	西尾 智康	MBL(株)医学生物学研究所 診断薬事業部
	鈴木 健太	MBL(株)医学生物学研究所 診断薬事業部
	高橋 知子	金沢医科大学放射線科
	角田慎一郎	金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科
	時光 善温	富山大学保健管理センター
	石澤 伸	富山大学保健管理センター
	細野 祐司	京都大学大学院医学研究科臨床免疫学
	横濱 章彦	群馬大学医学部附属病院血液内科
	塩川 雅広	京都大学附属病院消化器内科
	内山 明央	富山県立中央病院
	平田信太郎	産業医科大学第1内科学
	内田 一茂	関西医大第3内科
	八木 邦彦	金沢大学 第2内科
伊藤 直子	金沢大学 第2内科	
北川 駿介	浅ノ川病院 内科	
原 怜史	金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科	
藤田 義正	金沢医科大学 血液免疫内科学	
坂井 知之	金沢医科大学 血液免疫内科学	
三木美由貴	金沢医科大学 血液免疫内科学	
中島 章夫	金沢医科大学 血液免疫内科学	
岩男 悠	金沢医科大学 血液免疫内科学	
中村 拓路	金沢医科大学 血液免疫内科学	
河南 崇典	金沢医科大学 血液免疫内科学	
藤本 恵子	金沢医科大学 血液免疫内科学	
山口 利香	金沢医科大学 血液免疫内科学	
南野 理恵	金沢医科大学 血液免疫内科学	
良永 幸恵	金沢医科大学 血液免疫内科学	

IgG4 サードミーティング

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 研究奨励分野
「新規疾患,IgG4 関連多臓器リンパ増殖性疾患 (IgG4+MOLPS) の確立のための研究」

班会議

2010年8月7日 ホテル金沢

1. 事務連絡
2. 研究組織について (梅原)
 - ・研究分担者 10名 研究協力者 43名 総勢 53名
 - ・予算 1,500万円
 - ・班員紹介 (新たに参加された分担協力研究者)
3. IgG4 研究班これまでの経緯の説明 (正木)
 - ・参加登録施設、登録患者数など
 - 3-1. IgG4 前方視診断研究の説明：鑑別診断、病因研究について、SRLと提携内容 (IgG subclass、IL-6は予算で測定する)。
 - 3-2. IgG4 前方視治療研究の説明：ステロイドの使用量と期間等について診断が確定した IgG4+MOLPS で行う。
3. 今後の取り組み (梅原)
 - 4-1. 診断基準の制定にむけて
 - ・診断の手引き
IgG4 ミクリッツ病診断基準、自己免疫性膵炎(IgG4)、
 - ・IgG4 関連腎症診断基準ワーキンググループ (○川野先生、佐伯先生)
 - ・IgG4 関連呼吸器疾患診断基準ワーキンググループ (○松井先生、早稲田先生、源先生)
 - ・岡崎班診断基準との整合性＝統一診断基準の制定 (岡崎)
 - 4-2. 病因研究 (DNA アレイ、プロテオミクス、SNP 解析) の重要性 (梅原)
 - ・統一研究班での情報交換
 - ・データの特許申請
5. 新たな提案
 - ・IgG4 患者会、IgG4 関連糖尿病解析 (川野)
6. 外国に対する対応
The First International Conference On IgG4-Related Systemic Disease (IgG4-RSD)
(Massachusetts General Hospital, John H. Stone, Associate Professor of Medicine)
October, 2011
7. その他

「新規疾患, IgG4 関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究」班

サードミーティング班会議議事録

出席者：出席者名簿参照

1 事務連絡

- ・ 研究分担者・協力者報告書用書類提出 締め切り： 2月18日(金)
- ・ 収支決算報告書類提出 締め切り：2月25日(金)
- ・ 来年度 IgG4 フォースミーティング候補日：2月11日(金)または12日(土)
- ・ 新メンバーの紹介(組織表参照)

2 IgG4 梅原班これまでの経緯

- ・ 倫理委員会承認 21施設。
- ・ 診断研究については、当初の登録患者数の40例を既に超えているが、今後のデータ解析、研究継続のために、2年間で100例に変更する。(この変更を承認する：名古屋大学 鈴木律朗先生)。

3 診断基準の制定にむけて

- ・ IgG4 関連腎症診断基準ワーキンググループ(金沢大学 川野先生、新潟赤十字病院 佐伯先生)：腎臓学会内に日本腎臓学会「IgG4 関連疾患ワーキンググループ」が既に存在し、川野先生も佐伯先生もそのメンバーである。今後、数年をかけて診断基準確立を目指していく。
- ・ IgG4 関連呼吸器疾患診断基準ワーキンググループ(富山大学 松井先生、金沢大学 早稲田先生、大阪府立呼吸器アレルギー医療センター 源先生、富山県立中央病院 井上先生)で IgG4 関連呼吸器疾患診断基準を検討していく。その結果が、日本呼吸器学会で承認されるよう研究班として協力する。
- ・ IgG4 関連疾患の概念、診断指針的な診断手引きを岡崎班診断基準をもとに作成する。そのために、10月以降年内に、両班の臨床医および病理医からなる統一診断基準作成のための会合を招集する。

4 病因解析、基礎研究の合同

- ・ 現在、金沢医大において IgG4 患者検体を用いて、DNA array 解析、蛋白解析が進行中である。データ公表前に、研究班の財産になるよう特許申請中である旨が報告された。
- ・ 現在、3つの IgG4 研究班で、それぞれ独自に DNA array 解析、proteomics 解析、genomic, SNP 解析が行われているが、真の原因解明には、3班によるデータの共有が必要である。そのため、3研究班合同の情報交換の場を設定する。将来的には統一研究班における解析を行う。

5 新たな提案

- ・ 金沢大川野先生より、IgG4 関連疾患の疾患概念、診断治療の取り組みは進んでいるが、IgG4 患者の啓蒙や、診察の場で前向き研究に参加を依頼する場合のための患者向けパンフレット作成の必要性が提案された。
- ・ 金沢大川野先生より、IgG4 関連糖尿病の解析および糖尿病治療に関する小グループの必要性が提案され、金沢大学 臓器機能制御学の八木先生、伊藤先生が推薦された。

6. 外国に対する対応

今回の班会議での、最も重要な議案です。先日、当科の正木先生から、

The First International Conference On IgG4-Related Systemic Disease (IgG4-RSD)

(Massachusetts General Hospital, John H. Stone, Associate Professor of Medicine)

October, 2011

から、講演依頼と Organizing committee への招聘が来た事の報告を受けました。

プログラムからの印象ですが、NIH の grant を受けて米国で開催されるこの会で、IgG4 関連疾患のネーミング、概念、診断基準まで、叩き上げて行こうとの意思が読み取れ、早速、岡崎先生と相談の上、今回の議題に取り上げさせていただきます。

30人程のメンバーの中に、日本の IgG4 研究班からは、正木先生、神澤先生、川先生、山本先生、吉野先生、全先生の6人が招聘されておられます。日本からこのように多くの先生方が招聘されたという事実は、日本のこれまでの貢献が世界に認められ、各先生がたの業績が評価された結果と思います。先生方には、是非、日本でこれまで議論し練り上げて来た成果を発表して頂きたいと思います。

しかしながら、英語が母国語の外国メンバーの中で、日本人が彼らと対等にディベート出来るか、日本の診断基準や概念を完全にアピールし得るかが懸念されます。浜野先生に続き、多くの日本の先生方が発表してこられた IgG4 関連疾患を、日本発の「新たな疾患概念」として世界に公表すべく取り組んできた我々の努力が、一夜にして、アメリカ主導の発表に結びつく可能性を危惧致しました。

日本が日本がと固執するつもりはございませんが、第1区で先頭を切っていた日本が、第2区では集団に巻き込まれ、そのままじりじりと後退することだけはあってはならないと思います。第3区にトップで櫂を繋げられるよう、今回の班会議で、皆様の意見をお聴きして、以下の方針を立てました。

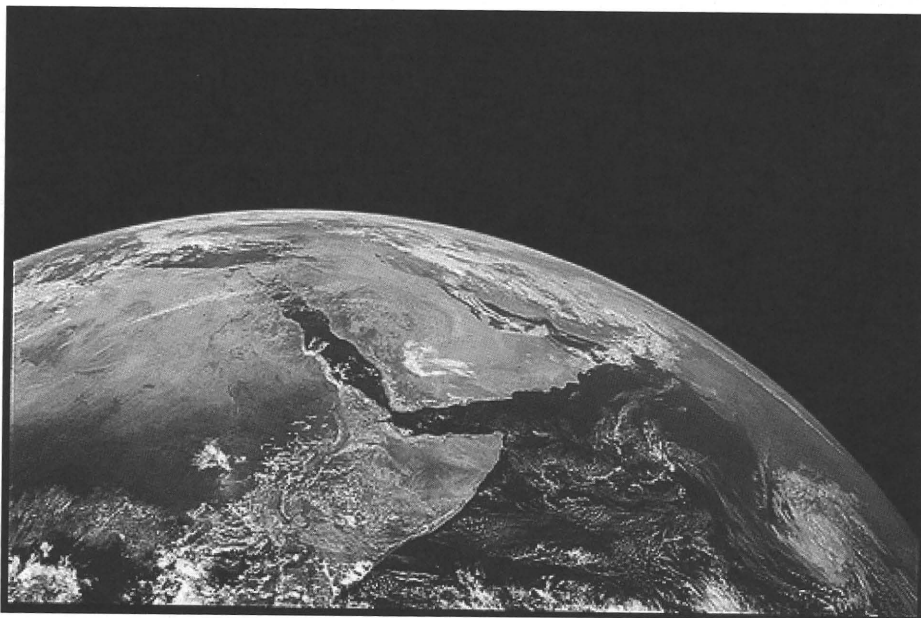
1. 10月以降で年内に、岡崎班と合同で臨床医、病理医を交えて、統一診断基準案を完成させるための会議を招集する。
 2. 来年2月の班会議までに、診断基準最終案を完成させ、梅原・岡崎両班で合意を得る。
 3. 可能であればその前後に、海外の IgG4 研究の先駆者を日本に招聘し、(国際) IgG4 会議を開催する。
 4. 上記を経て、できるだけ早急に、日本の IgG 関連疾患の概念と診断基準案を国際雑誌に投稿する。
- 以上。

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 研究奨励分野
「新規疾患, IgG4 関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS) の確立のための研究」

第3回 班会議

IgG4 サードミーティング
プログラム・講演抄録集

今、日本から世界に向けての発信！



日時：2010年8月7日（土） 13：30～17：30

会場：ホテル金沢 2F ダイヤモンド

金沢市堀川新町1番1号 tel:076-223-1111

事務局

〒920-0293

石川県河北郡内灘町大学1-1

金沢医科大学 血液免疫内科学

TEL: 076-218-8158, FAX: 076-286-9290

e-mail: igg4@kanazawa-med.ac.jp

厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業 研究奨励分野
「新規疾患, IgG4 関連多臓器リンパ増殖性疾患 (IgG4+MOLPS) の確立のための研究」班

IgG4 サードミーティング プログラム

13 時 30 分 開会の挨拶 梅原 久範 金沢医科大学血液免疫内科学

【セッション1】 IgG4 講演会 (臨床解析) (発表10分, 討論5分)

座長: 川 茂幸先生 (信州大学総合健康安全センター)
佐伯 敬子先生 (長岡赤十字病院内科)

1. 「IgG4+MOLPS の前方視臨床研究の現状報告」 正木 康史先生 (金沢医科大学血液免疫内科学講座)
2. 「消化器領域における IgG4 関連疾患—自己免疫性膵炎を中心に—」
岡崎 和一先生 (関西医科大学内科学第三講座)
3. 「IgG4 関連腎症の診断基準作成にむけて」
川野 充弘先生 (金沢大学附属病院リウマチ・膠原病内科)
4. 「IgG4 関連呼吸器疾患診断の手引き」 松井 祥子先生 (富山大学保健管理センター)

14 時 35 分 休憩

15 時 00 分

【セッション2】 IgG4 病理中央診断会 (60分)

司会: 正木康史先生 金沢医科大学血液免疫内科学

- 吉野 正 先生 (岡山大学大学院病態制御学腫瘍制御学病理学)
中村 栄男 先生 (名古屋大学医学部・大学院医学系研究科病理組織医学)
小島 勝 先生 (獨協医科大学病理学形態)
黒瀬 望 先生 (金沢医科大学病態診断医学)
廣川 満良 先生 (隈病院病理細胞診断部)

16 時 00 分 休憩

16 時 15 分

【セッション3】 IgG4 講演会 (病因解析) (発表10分, 討論5分)

座長: 住田 孝之先生 (筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床免疫学)
岡崎 和一先生 (関西医科大学内科学第三講座)

5. 「IgG4 関連疾患における IgG4 サブクラス自己抗体同定の試み」
川端 大介先生 (京都大学大学院医学研究科臨床免疫学)
6. 「IgG4 関連疾患と鑑別を要した多中心性キャスルマン病の免疫組織化学的検討」
黒瀬 望先生 (金沢医科大学病態診断医学)
7. 「IgG4 関連疾患における IgG4 クラススイッチ関連分子の解析」
坪井 洋人先生 (筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御学臨床免疫学)
8. 「IgG4+MOLPS (IgG4関連多臓器リンパ増殖症候群) の網羅的遺伝子発現解析」
石垣 靖人先生 (金沢医科大学総合医学研究所)

17 時 15 分 【全体班会議】

17 時 30 分 閉会

18 時 00 分 情報交換会

講演抄録集

IgG4⁺MOLPSの前方視臨床研究の現状報告

金沢医科大学血液免疫内科学

正木康史 梅原久範

目的：下記の目的のために、2つの前方視的臨床研究を進めている。

- (1) IgG4⁺MOLPS (IgG4 関連多臓器リンパ増殖症候群) の診断基準および治療ガイドラインを確立する。
- (2) IgG4⁺MOLPS の診断および治療効果の指標に有用な血清学的、遺伝子学的、組織学的マーカーを探索する。

前方視臨床研究：

1、診断基準確立のための研究： UMIN :R000002823

「IgG4⁺MOLPS (IgG4関連多臓器リンパ増殖症候群)、Castleman病その他の多クローン性高γグロブリン血症の鑑別診断のための多施設共同前方視的臨床研究」：2年間で、目標40例以上

2、治療指針確立のための研究： UMIN :R000002820

「IgG4⁺MOLPS (IgG4関連多臓器リンパ増殖症候群) のステロイド治療指針を決定するための第II相多施設共同前方視的治療研究」：5年間で、目標46例

倫理委員会承認および症例登録状況：

2010年6月25日現在、19施設（金沢医科大学、長岡赤十字病院、倉敷成人病センター、信州大学、富山大学、西群馬病院、群馬県立がんセンター、札幌医科大学、関西医科大学、諫早総合病院、群馬大学、長崎大学、都立駒込病院、筑波大学、京都大学、神戸海星病院、愛媛大学、金沢大学、福井大学、以上承認順）で既に倫理委員会承認を得ている。そのうち診断研究／治療研究両方に承認ありは12施設、診断研究のみの施設は7施設である。

2010年6月25日現在、診断研究48例、治療研究9例の症例が登録された。

まとめ：

各施設の担当の諸先生の御尽力により徐々に倫理委員会承認施設数も、登録症例も着実に増えてきた。本邦発のIgG4関連疾患に対する、より質の高いエビデンスを確立するために前方視臨床研究が必須であり、今後とも積極的な症例登録をお願いしたい。

消化器領域における IgG4 関連疾患～自己免疫性膵炎を中心に～

関西医科大学内科学第三講座（消化器肝臓内科）

岡崎 和一

消化器領域における IgG4 関連疾患には自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎などがあるが、新たに IgG4 関連疾患としての自己免疫性肝炎や腸病変の存在する可能性も示唆されている。本邦における自己免疫性膵炎は IgG4 関連疾患が殆どをしめ、診療ガイドラインも作成された。欧米では好中球病変も自己免疫性膵炎の亜型とされて分類されており、これらを含めた診断基準の国際化もなされつつある。以上を背景に、わが国における自己免疫性膵炎および国際化のながれの中における IgG4 関連疾患としての位置づけを中心に概略をお話します。

IgG4 関連腎症の診断基準作成にむけて

金沢大学附属病院 リウマチ・膠原病内科

川野 充弘

IgG4 関連腎症の疾患概念の確立と診療指針の作成を目的として、日本腎臓学会のワーキンググループである「IgG4 関連腎症ワーキンググループ」が発足し、2009年8月30日に第1回会議が東京で開催された。2010年6月16日、神戸の第3回会議では、日本腎臓学会倫理審査委員会で2010年5月24日に承認された「IgG4 関連腎症の臨床病理学的特徴を明らかにするための多施設共同後方視的検討(IgG4RN study)」の研究計画書が提示され、本格的に後方視的研究がスタートした。これは、2010年7月1日より2013年3月31日までの期間に、50症例を目標に、これまでに学会報告された症例や論文化された症例を中心に、臨床所見、他臓器所見、腎生検所見、血液生化学的所見あるいは免疫学的所見から IgG4 関連腎症が疑われる症例を日本全国から登録して、各症例の腎生検標本をバーチャルスライド化し臨床的、病理学的検討を行う研究である。

これと平行して、「IgG4 関連腎症の診断基準」作成への取り組みもスタートした。中心的病理所見は1. 繊維化及びリンパ球・形質細胞浸潤を特徴とする、2. 浸潤形質細胞の40%以上はIgG4陽性形質細胞であるの2項目を満たす間質性腎炎であるが、これに加えて腎病理に特徴的な所見として1. 病変部と非病変部の境界明瞭な間質性腎炎、2. 腎皮膜を超えて広がる間質性腎炎、3. 深部髄質に及ぶ間質性腎炎、4. 尿細管炎が目立たない間質性腎炎、5. PAM染色で“bird's eye pattern”という特徴的な繊維化を伴う、6. 腎臓にリンパ濾胞形成がある、7. 好酸球浸潤があるの7項目を抽出した。これら7項目の合計得点により病理学的特徴のみでシェーグレン症候群に伴う間質性腎炎のような他の間質性腎炎と鑑別が可能かどうかを検討する。その際に、自己免疫性膵炎やミクリッツ病のような明らかな IgG4 関連疾患に伴う間質性腎炎と腎以外には明らかな IgG4 関連疾患の病変を認めない間質性腎炎を比較検討し、腎画像診断の有用性を取り込んだ「IgG4 関連腎症診断基準」の素案を提示する予定である。

本講演では、以上の2項目につき、現在までの進行状況を報告する。